都市産業研究会 2017年度提言書

相模原の観光を考える！

森林資源、既存観光資源の利活用と市内活性を目指し、「One sagamihara」を実現！

都市産業研究会では、2016年度の活動テーマとして「相模原の観光」を掲げ、活動してまいりました。定例会では、行政や関係団体の方と意見交換を行い、移動定例会では、森林自然の豊富な緑区宮ヶ瀬湖地域と藤野地域を訪問し、改めて緑区の貴重な観光資源としての有用性を確認しました。

この度、2016年の活動報告として定例会で取り組んできたことや、会員が普段、感じている相模原市の観光資源についての意見や感想を本提言書にまとめました。意見は、母数が少なく限定的ではありますが、率直な意見としては参考になると考えます。2016年度活動の証として本提言書を作成した上で、今後の相模原の発展のために役立つ参考資料として活用いただけるよう期待します。

本提言は、相模原市への来訪者を増加させることにより市内の経済・文化・風習の継続的維持発展を促し強い相模原に資することを目的に作成しました。

The Sagamihara Chamber of Commerce and Industry
相模原商工会議所

課題 「相模原の観光」を様々な角度から考える

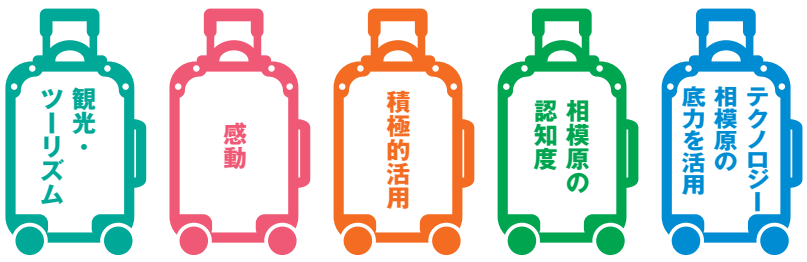
現状の「相模原の観光」についての「課題」、
それらを改善する「提案」、活性を促すだろうと考える
「アイディア」の３項目についてまとめました。

課題：相模原観光・ツーリズム

観光エリア	1	相模原周辺の観光資源化（愛川町等、周辺地域）の遅れ
アクセス	2	自家用車利用・バス等公共交通機関利用の周回ルートを公開・告知不足
地域産アピール	3	地域産品のアピール不足 （食・工芸・製品の構築・情報が少ない）
利便環境整備	4	自然環境活用の不足 （あいかわ公園、上大島キャンプ場、高田橋周辺など）
安近短ツアー支援	5	「安・近・短」お手軽日帰りツアーの支援不足
認知度	6	認知度アップのための告知不足 （若い年代層に「来て・見て・知って」もらう施策を中心に）
おもてなし力	7	ホスピタリティーあるまちの議論不足 （観光客を受け入れる意識・認識不足）
イベント活用	8	イベント活用のための工夫不足（相模原市６大観光事業など）
地域隷属脱却	9	「地元だけの祭事からの脱却」についての議論不足
稀少資源	10	首都圏稀少性活用不足（宮ケ瀬ダム、相模湖、城山湖、津久井湖、相模湖プレジャーフォレスト、JAXA相模原キャンパスなど）
動員力	11	相模原スポーツ観戦のアクセス利便性構築不足

この提言で相模原のツーリズムの日が昇る！

相模原の観光・ツーリズム資源（これから行うべきこと）



地域で起きているマイナスの連鎖とは

1 農山漁村地域では

過疎化→高齢化→ 集落の存続が困難

⇩森林や農耕地に人の手が入らなくなり、山の荒廃や遊休農地の増大が進み、地域コミュニティそのものだった場が今、崩壊。

⇩地域を守る若者の未婚化・晩婚化が進み少子化が加速。

▶遊休農地の新たな利活用が都市部との地域間連携の柱となり交流や活性化に役立つ。

2 地方都市では

空洞化→シャッター通り→ 地場産業の衰退

⇩バブル崩壊後、地場産業はコスト削減から競争力が低下し、後継者不足も相まって存続の危機をむかえる。

▶地域に根ざした匠の技の継承や産業観光が地域資源や再活性化の柱となりつつあり、再び注目を集める。

市内で感じる相模原の現状

3 大都市圏では

過密化→コミュニケーション不在→ 地域に無関心

⇩東京の一極集中が慢性的な交通渋滞や住宅の密集化を引き起こし、災害時の危険度が増大。経済・情報・治安などあらゆる分野で格差が生じる中、人はコミュニケーションの場を失い地域に無関心な状態が続く。

▶ICTの利活用が子育てなど日常生活の話題からビジネスまで、思いもよらない人と人とを結びつけ、まちづくりのツールとなっている。

※まちづくりの牽引者は、「よそ者・わか者・ばか者」

よそ者（外から視点の感性）がいかに既存コミュニティの理解を得られるかがカギ。取り組みを実施し、定着・継続するためには、相互に共存しながら実績を出し、納得してもらい信頼関係を築くことが大切。

出典：魅力あるまちづくり事例集　平成20年５月　関東ICT推進NPO連絡協議会

相模原観光は地域課題解決へのバック トゥ ザ フューチャー

※写真はイメージです

- 観光資源の徹底的情報発信
- さがみはらのおもしろさ・ツアーの交通利便の促進
- インフラ・ツアーを含む新相模原施設の観光化
- 自然・健康ツアーの環境整備
- 市内イベントの相互関連性の構築
- 情報インフラ（相模原Wi-Fi for Tourist）の早期実現
- メディカル・ツーリズム構想
- 首都圏規模の防災会議の開催
- インバウンド戦略の構築

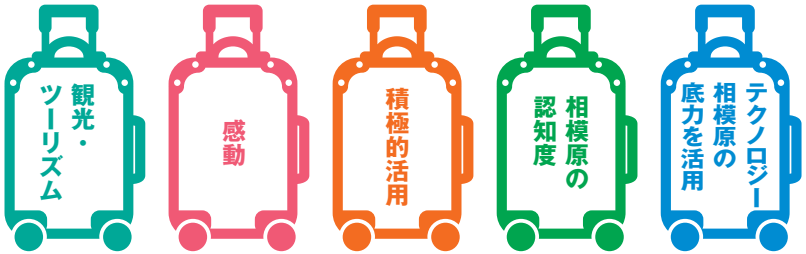
この提案で「One Sagamihara」を実現！

（かけがえのない相模原）

項　目	提案内容	そのための施策 具体例
観光資源の徹底的情報発信	▶市内でフードバトルを展開して相模原名物を掘り起こす ▶有名人を創る。芸術、俳優、芸人、タレント、選手、地元の有名人を発掘するお笑い道場 ▶フイルムコミッションによる新観光地の創設。市内ロケ地を使った映画をとことん宣伝 ▶就労環境の変化に対応：IT活用（働き方の変化）、自動運転技術、AI（人工知能の発達）を背景に職業の変化、創造的、アーティスティックな分野の増加に応える情報発信方法の工夫、SNS活用（ブログ・フェイスブックなど）	行政に頼る構造から、観光協会、商工会議所、商工会などが中心にSNSで繋がる情報発信など多方面でのインフォ戦略を早期に実現
		癒しの融合を観光資源化：「水と森と大地と空（宇宙）」の融合した癒しと学びとロマンの詰まった観光施設
さがみはらのおもしろさ・ツアーの交通利便の促進	▶「おもしろ」資源の活用、「桜まつりの全国祭披露会」、「一日ラーメンストリート」の開催など	市民桜まつりの更なる強化と市民祭をレベルアップへ
		「One Sagamihara」が全国規模へ昇格を目指す
インフラ・ツアーを含む新相模原施設の観光化	▶圏央道の利便性を生かし都心と郊外をつなぐハブ化のPR ▶リニア中央新幹線鳥屋車両基地の観光資源整備（撮り鉄の新たな聖地）	管理者との連携を円滑にする行政支援と、民間によるツアー構築を早期に実現する協議会の設立
		インフラ・ツアーは、従来のように管理者が主体的に実施する「現場見学」だけではなく、民間の旅行会社が企画立案して有料で催行される「民間主催ツアー」もあり、多岐にわたりこれを活用
自然・健康ツアーの環境整備	▶大自然の満喫を支援する大型バス駐車場、トイレ、休憩、食事、ショッピングセンター整備 ▶日帰り旅行圏の利点活用：市内観光と自然観光の両面活用、一泊旅行圏の構築	法規制の緩和、補助支援制度の充実
		大量ツアーに対応出来る物理的環境づくり
市内イベントの相互関連性の構築	▶イベント相模原は月替わり関連でリピータを喚起	市域全体のイベント間総合会議の開催
		One Sagamiharaとして活動
情報インフラ（相模原Wi-Fi for Tourist）の早期実現	▶国内外のツーリストに相模原市内を快適に移動してもらう情報インフラを構築	飲食店や一般店舗、GS、コンビニエンスストアなどを活用したWi-Fiシームレス網を施策化
		情報ユビキタス都市：Wi-Fi環境完備の天空潤水青空カフェ
メディカル・ツーリズム構想	▶高度先進医療、次世代オーダーメイド医療のインバウンド需要を含めた顧客取り込みと市内の観光資源（ゴルフ場、ショッピングセンター、自然満喫、周遊旅行等）をマッチさせたウィンウィンの可能性を検討	市内の大学、病院との協議会を発足
		国内外の富裕層の取り込み戦略
首都圏規模の防災会議を相模原で開催	▶首都圏バックアップの最有力地（地盤、位置、気候）としての国、県、周辺政令市を巻き込んだ開催市として定着。平常時の防災拠点活用として大都市圏の安全後方支援基地最適地として活用	毎年の会議に応える会議場の整備
		例年イベントとして定例化
インバウンドツーリストの為の周辺大観光地へのアクセスハブ機能の構築	▶相模原だけの観光にこだわらず、空港、富士山、箱根、浅草などへのベスト宿泊地を目指す（都心と郊外をつなぐハブ化のPR） ▶言葉の壁は、スマートフォンの翻訳アプリで楽々！	インバウンド外国人などの宿泊、日帰り機能を充実 Wi-Fi環境で後押し
		市内ばかりに目を向けず、周遊旅行支援力を増強 民泊施設を利用し、真のジャパニーズライフを世界展開へ

IDEA for Tourism Sagamihara

アイディア 相模原観光・ツーリズム



「そこまでやるのか」大会の開催

こま大戦、フードバトルの開催（安全にはもちろん配慮）
「ツールド・サガミッパラ」の開催（ネーミングに親しみやすさ）

観光親善大使の民間主導による魅力再構築

制服にこだわらず行儀以外で勝負、タレント発掘の場としても活用

車両基地中心の観光起爆

リニア鉄道関連店舗や見学施設、宿泊施設による国内外鉄道ファンの観光拠点

観光串刺しでアピール

点在資源の観光で串刺しにつなぐルート整備、観光バスを運行
JAXA宇宙科学研究所、リニア車両基地、宮ケ瀬ダム、相模湖プレジャーフォレスト、城山湖などを一体化

創造する観光資源

市民が何を打ち出すか、まとめるシステムが必要
宮ケ瀬ダムなどと一体となった街づくり

インバウンド／ツーリストの為のコミュニケーションツール

スマートフォン翻訳アプリで、外国人との会話サクサク

これぞ日本人の生活を実感

相模原の民泊生活で日本のすばらしさを実感

多方面アクセス活用

「若さと勢い」がある都市として先進的な「何か」の訴求と豊かな自然の魅力を両輪化したツーリズム

最後に

本提言書は、過去に作成公表してまいりました、2014年度提言書「相模原の15年後チェックリスト」並びに、2016年度「橋本・相模原周辺都市整備に関する提言書」を踏まえ、「相模原の観光」にスポットを当て、多くの人々が訪れるまちをどのように構築するかを会員が考えました。

ご一読いただき、より良い相模原のまちづくりのご参考にしていただければと思います。

作成者：相模原商工会議所　都市産業研究会　2017年4月1日

発行者代表：会長　小野　弘　　原案・編集：監事兼顧問　中嶋幸夫

会　員（役職以下・50音順）

小野　弘（小野建材工業㈲）
井上　栄次（井上栄次税理士事務所）
唐澤　章三（インクループ㈱）
山中　仁（㈲山中自動車商会）
白井　一郎
安西　登（㈱K・A・S・H）
桑島　克也（大野土建㈱）
原　正弘（㈱清和サービス）
今井　俊男
原　保美（㈱エフエムさがみ）
中嶋　幸夫
荒井　聖（㈲いかりや）
安藤　悦郎（社会保険労務士法人安藤事務所）
市川　英一（㈱相模運輸）
井上　誠司（ヘアーワークス　イノウエ）
浦上　裕史（菊屋浦上商事㈱）
金子　政明（㈱エスユーホームズ）
小峰　望（のぞみ合同事務所）
櫻井　正友（SMEコンサルティングオフィス）
櫻内　國富（㈱櫻内工務店）
柴田　正隆（㈱ウィッツコミュニティ）
柴田　正彦（㈱阿波設計事務所）
清水紳一郎（㈱清水屋百貨店）
白井　憲二（東神興業㈱）
杉岡　芳樹（相模ガス㈱）
高木　明（サフラン高木）
高木　幸夫（高木土地㈱）
高橋　純（司法書士　高橋純事務所）
田口　直樹（㈱樹）
武内　英雄（㈲武内商店）
所谷　茂（つばめ観光バス㈱）
長崎　克央（㈲創夢設計）
中村　昌治（㈲石神前中村商店）
新津　裕史（㈲新津裕史事務所）
西野　清一（㈱西野工務店）
萩原　理介（㈲アルファプランニング）
平栗　文夫（㈲平栗）
広川　正和（アイフォーコム㈱）
八木大二郎
八木　千露（㈱八千代銀行相模原･県央法人営業部）
矢田　正和（一級技能士事務所　丸正塗装）
渡邉　敦（特定非営利法人かながわ環境教育研究会）
渡邊知雅子（㈲さがみぴーあーる）
（　）内は所属会社

The Sagamihara Chamber of Commerce and Industry
相模原商工会議所